

中国語教育学会会報

第59号(通巻84号) 2021年1月12日発行

〒464-8601
愛知県名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院 人文学研究科
丸尾誠研究室内
中国語教育学会
Website <http://www.jacle.org/>
Email headoffice@jacle.org
郵便振替口座 00110-1-191152

目次

1. 第19回全国大会発表募集
2. 2020年度第2回理事会報告
3. 事務局からのお知らせとお願い

1. 第19回全国大会発表募集

中国語教育学会第19回全国大会は、2021年6月5日（土）、6日（日）にオンライン方式で開催されます（関西外国語大学における対面方式での開催は中止となりました）。大会概要は下記のWebサイトをご覧ください。

<http://www.jacle.org/annual/>

第19回全国大会の発表申し込み期間は2021年2月1日から2月20日23:00（日本時間）です。発表申し込み前に必ず下記の学会Webサイトにて最新の発表応募規定をご確認ください。

<http://www.jacle.org/application2020/>

発表申し込みは2021年1月29日の時点で2020年度までの会費を納入済みの中国語教育学会会員に限ります。会費をまだお納めでない方は、早めにご入金ください。なお、本学会の年度は4月に始まり、翌年3月に終わります。2020年度は4月1日から3月31日までです。

WEB版会員名簿（会員情報管理システム）を通じて、会員ご自身で会費納入状況を確認することができます。

<https://a-youme.jp/jacle/member2/>

2. 2020年度第2回理事会報告（以下の報告内の日程等は理事会当日における報告内容です）

2.1. 開催日時・場所・出席者

日時：2020年11月29日（日）13:30-16:30

方式：Zoomを使用したWeb会議

出席者（敬称略）：

丸尾誠、阿部慎太郎、植村麻紀子、加藤晴子、清原文代（兼第18回全国大会準備委員会委員長）、佐々木勲人、謝平、鈴木慶夏、氷野善寛、平井和之、藤井達也、三宅登之、村上公一、山田眞一（兼著作権規定検討委員会委員長）（以上理事）

安藤好恵（『中国語教育』19号（2020年度）編集委員会委員長）

中田聡美（デジタルリソース委員会委員長）

中村俊弘（第19回全国大会準備委員会委員長）

勝川裕子、趙宏剛、望月雄介（以上幹事）

2.2. 報告事項

2.2.1. 『中国語教育』第19号査読結果について

『中国語教育』第19号査読結果について、全部で18本の投稿があり、うち17本を受理したこと、および依頼原稿1本、論文4本、実践報告1本が掲載予定であることが報告された。

（2020年度第2回編集委員会は、2020年11月29日（日）10：30－11：20にZoomによるリモート方式で開催された）

2.2.2. 第18回全国大会（2020年度）開催報告（会計）

第18回全国大会の会計収支について、以下の報告がなされた。

収 入	
書店・出版社出展料（非会員2社）	¥4,000
	計 ¥4,000
支 出	
Zoom契約料（プロ契約¥2,200×3，大規模オプション契約¥7,370×4）	¥36,080
大会案内発送費（あゆみコーポレーション， 501通，印刷費・郵送費・発送業務）	¥76,803
備品購入費（大会備品郵送箱代）	¥220
郵送費（大会備品郵送代）	¥2,395
振込手数料（大会案内発送費・郵送費ほか振込分）	¥1,180
	計 ¥116,678

2.2.3. 第19回全国大会（2021年度）準備委員会準備状況報告

同大会の準備状況について、以下の報告がなされた。なお、理事会開催時点ではハイブリッド方式で開催する予定であるが、新型コロナウイルス感染拡大の状況次第では開催形式に変更がありうることも、また、大会参加費についても設定変更の可能性があることもあわせて報告された。

予稿集原稿提出の締め切りに関して、スケジュールに示されている4月23日というのは紙とデジタル版の両方を発行していた時期の締め切り日であって、デジタル版のみの場合は、予稿集と当日のスライドの齟齬を防ぐために、もう少し遅くできないかという意見が理事より出された。

1. 開催時期と会場について

日時：2021年6月5日（土）、6日（日）

ハイブリッド方式での開催予定（現在実施の可否は確認中） ※下記記述参照

場所：関西外国語大学御殿山キャンパス・グローバルタウン

（〒573-1008 大阪府枚方市御殿山南町 6-1）

※理事会開催後に、関西外国語大学における対面方式あるいはハイブリッド方式での開催は中止とし、オンライン方式により開催されることが決定した。以下の記述は理事会開催時のもの。

2. プログラム（案）

【1日目（6月5日）】

（1）基調講演「日本語教育者から見たこれからの外国語教育」（仮題）

笈川幸司

（ジャスロン(北京)教育諮詢有限公司代表(湖南師範大学, 成都理工大学他客員教授)

（2）シンポジウム「再考日本の中国語教育」

・「中国語検定試験のこれまでと未来（仮題）」 内田慶市（関西大学）

・「これからの中国語教材（仮題）」 出版社担当者に依頼予定

【2日目（6月6日）】

（1）分科会発表：発表時間 20分、質疑応答 10分。午前 2会場、午後 3会場開催予定

（2）ポスター発表：発表時間 40～50分

3. 今後のスケジュール

2020年 12/20	Web ページに第 19 回全国大会の告知開始
2021年 1/15	会報に大会案内と発表応募要項を掲載して発行（学会事務局）
2/1～20	発表申込受付期間
3/10	発表採択者の決定
4/20	大会プログラムの発送
4/23	予稿集原稿締め切り
4/24～5/15	予稿集編集
4/24～5/14	事前申込期間（参加申込の後のキャンセル（振込手数料を除いた参加費の返金）は 5 月 14 日受付終了日までなら可）
5/15～20	ウェブ掲載開始
	司会担当者にメールで担当分のみ別途送付
6/5～6	大会当日

4. 学会託児について

各自で託児所を手配して預け、後日領収書を提出してもらう。学会が定める補助金額の範囲内で、託児料金の半額までを学会が補助する。学会が補助する上限額は枚方市近隣の託児所の時間費用を参考に決定する予定。なお、学会託児に関する補助は学会員のみとする。

5. その他

(1) 発表の種類と応募方法

発表形態は1) 分科会発表、2) ポスター発表のいずれかとする。

応募は大会準備委員会が指定する期間に、「発表申込表」と「発表要旨」(1000字)を提出する。

(2) 発表応募時期

理事会終了後、Web ページ、ニューズレター等で広報を開始し、2021年2月1日から2月20日23:00(日本時間)の期間に申し込みをメールで受け付ける。

(3) 大会参加費について

事前申し込み：会員 3,000 円／非会員 3,500 円

当日申し込み：3,500 円(会員／非会員ともに)

出店料：3,000 円(会員団体)、5,000 円(非会員団体)

弁当は1日目、2日目共に用意しない。大会役員も両日ともに各自で用意する。

(4) 予稿集について

「デジタル版」のみを作成。発表予定者には「執筆要領」に従いデータの提出を求める。

「デジタル版」は大会およそ1週間前から学会 Web ページに掲載。

デジタル化に際して発表申込時に「発表申込表」に「電子化してウェブで公開することに同意する」という旨の一文を入れ、事前に同意をとる。

(5) 懇親会について

開催しない。

(6) キャンセルについて

事前申込をした人が参加のキャンセルを求めた場合、(振込手数料を除いた)参加費の返金は、5月14日受付終了日までなら可。

(7) 同一あるいは類似メンバーが複数の発表をする場合

同一あるいは類似メンバーが複数の発表をする場合、それぞれの発表内容が異なれば問題ないが、同じ内容であれば認めないこととしたい。したがって、募集要項に「同一内容の発表を分割して発表することは原則として認めない」の文言を入れる。

(8) 発表時の使用言語

発表の申し込みの際に発表時の使用言語を書き込む欄を作る。申し込んだ使用言語以外は発表時認めない。

2.2.4. 第20回全国大会（2022年度）について

第20回全国大会の開催校と大会準備委員会が以下のように内定したことが報告された（敬称略）。

日程：未定（2022年5～7月ごろ）

場所：宮崎大学木花キャンパス（〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西1-1）

大会準備委員会：藤井久美子（委員長）、他の委員は人選中

2.2.5. 研究会開催報告

今年度の研究会について、以下の報告がなされた。

2020年度第1回研究会

日時：4月25日（土）

開催方法：Zoom 利用によるオンライン

「中国語の遠隔授業をデザインする」

13:20～13:30 趣旨説明（研究会担当：鈴木・植村）

第1部

『中国語科目の遠隔授業の作り方』 氷野善寛（目白大学）

13:30～14:00 パート1 《遠隔授業を始める前に知っておきたいこと》

14:05～15:00 パート2 《遠隔中国語授業について》

第2部

15:10～15:40 『ZOOM基礎の基礎』 紅粉芳恵（大阪産業大学）

15:45～16:15 『講義動画を作ってみよう』 清原文代（大阪府立大学）

16:20～16:50 『LMSの使い方を細かく見てみよう、使ってみよう』 氷野善寛（目白大学）

16:55～クロージング（研究会担当：鈴木・植村）

情報交換タイム

17:20 終了

2020年度第2回研究会

日時：2020年8月29日（土）

開催方法：Zoom 利用によるオンライン

13:20～13:30 趣旨説明

13:30～14:30 「新型コロナウイルス長期化に向けた異文化コミュニケーション教育～インターネットを介したタンデム学習の可能性～」 欧麗賢（広州大学）

14:40～15:40 「使える！中国語オンライン授業向けツール&Tips」 杉江聡子（札幌国際大学）

15:50～16:20 「レベル横断的読解テキストの設計と試行—現代小説を題材として—」

単艾婷（西南学院大学）

16:30～17:00 「オンラインで「試験」は可能か～2020年度春学期を振り返って」

伊藤大輔（目白大学）

2020年度第3回研究会

日時：2020年12月13日（日）

開催方式：Zoom 利用によるオンライン

日本語母語話者のための中国語教育文法を考える —— 「何を」「どう」学ぶか ——

13:00～13:10 全体の趣旨説明

13:10～13:30 ユーザー視点の中国語教育文法が提供すべき情報とは —— 学習者の“是……的”構文使用状況から —— 鈴木慶夏（神奈川大学）

13:35～13:55 語法点引入時の話題と场景选择 —— 以教材中差比句的处理为例

张恒悦（大阪大学）

14:05～14:25 データから見る日本語比較表現の実態 岩田一成（聖心女子大学）

14:30～14:50 データから見る中国語比較表現の実態 西香織（明治学院大学）

14:55～15:15 「比べて選ぶ」ための教案 —— “货比三家” ネットショッピングサイトを
利用して学ぶ —— 清原文代（大阪府立大学）

15:25～15:45 中国語初級教科書における語気助詞の扱いを再考する —— 語気助詞“吧”を例に
—— 中田聡美（大阪大学）

15:50～16:10 多機能語の感性的教授法について —— “把”のコアイメージを例として ——
古川裕（大阪大学）

16:10～16:30 全体討議

2.2.6. デジタルリソース委員会報告

デジタルリソース委員会の活動について、以下の報告がなされた。

2.2.6.1. 学会ウェブサイトの更新について

デジタルリソース委員会では、定期的に Web サイトの更新作業を実施しており、2020年6月に開催された前回の理事会以降、以下の点について更新作業を行っている。

「全国大会」…第19回全国大会のページを新設。

「研究会・講演会」…2020年度第2回研究会の開催通知を掲載。期間限定で一部資料を公開。

「会報」…『中国語教育学会会報』第58号を掲載。

2.2.6.2. 外部団体等からの掲載依頼

大学等公募情報の掲載依頼があり、いずれも学会の Web サイトへの掲載に問題のない内容であり、また、会員からの掲載依頼であるため、デジタルリソース委員長が採否を決定、委員会で掲載した。

○公募情報：立命館大学（嘱託教員の公募について）（7/10～8/19）

○公募情報：広島大学（7/13～9/18）

○公募情報：共立女子大学（11/24～12/21）

（ ）内は掲載期間

【参考】 イベント情報等の掲載フロー

○主催行事等、学会が主体であるような告知

各担当者 → デジタルリソース委員会

○会員からの関連する他団体等の情報、公募情報

会員 → 事務局 → デジタルリソース委員会（採否の決定は委員長） ※上記は全てこのケース

○非会員・他団体等からの直接の掲載依頼

非会員の個人や団体等 → 事務局 → デジタルリソース委員会 → 理事会（持ち回り）で可否審議
→（可の場合）デジタルリソース委員会で掲載、（否の場合）デジタルリソース委員会から回答

2.2.6.3. メーリングリストへのメンバーの登録と削除、アドレスの変更

メーリングリストの自動化プログラムが完成し、現在はメーリングリストへの登録、削除およびアドレスの変更は自動的に行っている。メーリングリストにこれらの変更が生じた場合には、デジタルリソース委員会のメールアドレスに通知が届くようになっている。

2.2.7. 著作権規定検討委員会

2.2.7.1. 委員長の選出

著作権規定検討委員会の委員長および委員の選出について、以下の報告がなされた。

2020年度第1回理事会開催後の6月に、委員長として山田眞一先生が互選された。

委員：山田眞一（委員長）、村上公一、佐々木勲人、田邊鉄

2.2.7.2. 委員会開催記録

著作権規定検討委員会の活動について、以下の報告がなされた。

第1回

期間：8月22日（土）～9月6日（日）

方法：メール会議

[協議事項]

著作権規定策定に係る「論点整理」を行い、委員会において検討する事項について情報を共有した。

1. 基本的考え方

2. 規定に盛り込む事項

(1) 著作物の範囲

(2) 著作（財産）権の範囲

(3) 著作権の帰属

(4) 著作者の著作権使用

(5) 著作者の責任

(6) その他

第2回

日時：9月26日（土）20：00～21：30

方法：ZoomによるWeb会議

[協議事項]

1. 規定策定の基本方針

- (1) 著作者にとって著作物を利用しやすい著作権処理を行う
- (2) コンテンツの流通を促す
- (3) 著作権の譲渡を求めるもの／求めないもの、著作権を行使するもの／しないもの、著作権を保持できるもの／できないもの、を分けて明示する

2. 規定に盛り込む事項 [資料：日高真子「国内学術誌における著作権の取り扱い調査著作権規定のひな型と『情報管理』誌におけるケーススタディ、『情報管理』2010. 4]

(1) 目的

- ・著作権に対する学会のスタンス

(2) 定義

- ・規定の対象となる著作物

(3) 著作権の帰属

- ・著作財産権は学会に属するか著作者に属するか

- ・「いつ」帰属が発生するか

(4) 著作人格権の不行使

- ・著作人格権は学会に譲渡できないため、著作者が著作人格権を行使しないということを明示

(5) 著作者による著作物の使用

- ・著作者による利用を学会としてどこまで許諾するか

(6) 著作者による保証等

- ・著作権規定とは別途、投稿規程で定めることも可能

例・第三者の権利を侵害していないこと

- ・二重投稿ではないこと

- ・共同著作である場合は、投稿に際し全共同著作者の了解を得ている事を著作者に対して保証させるための条文

(7) 二重譲渡の禁止

- ・学会に対して譲渡するとした著作権が他者にも譲渡されることがないようにするために設ける

(8) 紛争解決に関する協力

- ・紛争が起こった際、著作者、学会の双方が協力して対応を行う旨を確認的に示す

(9) 協議

- ・本規定の想定外の事象が起こった際の対応の基本姿勢を確認的に示す

3. スケジュール

(1) 令和2年度

①9月26日

- ・論点整理について協議し、著作権規定策定の方向性を確認
- ・著作権規定に盛り込む項目について協議

②11月中旬

- ・理事会に提出するたたき台について協議

③理事会終了後

- ・理事会で出された意見を踏まえ、著作権規定の原案を作成
(＊リーガルチェックを受ける)

(2) 令和3年度以降

- ・著作権規定案を理事会に提出
- ・理事会において最終案を協議。承認されれば総会において規則改定を諮る。

第3回

日時：11月21日(土) 20:00～21:10

方法：ZoomによるWeb会議

[協議事項]

1. 「著作権規定」のたたき台について

11月29日(日)開催予定の理事会に提出する「著作権規定」のたたき台について協議した。

2.2.8. 会員動向および会費納入状況(会費未納による除籍者報告)

会員動向および会費納入状況について報告がなされた。内訳については3.1.を参照のこと。

2.3. 審議事項

2.3.1. 『中国語教育』編集委員会関連事項

2.3.1.1. 『中国語教育』第20号(2021年度)編集委員選出について

『中国語教育』20号(2021年度)編集委員が、以下の通り決議された(敬称略)。

〈2年目〉

長谷川賢(立命館大学)【委員長】

紅粉芳恵(大阪産業大学)

安本真弓(跡見学園女子大学)(中国語話者)

藤井達也(埼玉県立和光国際高等学校)【理事枠】

〈1年目〉

相原里美(関西外国語大学)

杉江聡子(札幌国際大学)

馮戦兵(梅光学院大学)(中国語話者)

謝平(福岡大学)【理事枠】

2.3.1.2. 投稿票の文言の変更について

現在の投稿票には「頁数（第 1 頁から参考文献まで）」と記載されているが、投稿原稿によっては参考文献の後に「付録」としてアンケート用紙等が数枚つくものがあり、その部分まで含めた総ページ数を記載したものと、参考文献までの頁数を記載したものが混在している。また執筆規程を守らない投稿者が少なくないことから、現在の投稿票に記載されているチェックリスト項目の追加が提案された。上記の文言に関する変更およびチェックリストの追加については編集委員会で検討の上、次回の理事会で審議案を提出してもらう予定である。

2.3.2. 退会者の扱いについて

以前は退会届のフォーマットがあり、退会を希望する者はそれを事務局に郵送して手続きを行っており、年度末をもって退会となっていた。現在では Web 上で自身でクリックする方式へと変更になっていることに鑑み、退会成立時点および会員資格を有する期限等に関して、以下のように決議された。

会員が Web 上で退会ボタンをクリックした時点で、退会者として扱われることになる。退会者は「退会年度の学会誌・会員名簿を受け取る権利」のみを有し、「学会誌へ投稿する権利」、「研究会および学会において発表する権利」、「理事選挙に投票する権利」は失うこととなる。

2.3.3. オンライン研究会開催後のレジュメの扱いについて

研究会におけるレジュメについては、発表者本人の了承を得た場合に限り、学会ホームページに掲載することが決定された。発表者の希望により期間を定めて学会ホームページに掲載することも可とする。

2.3.4. 著作権規定検討委員会

著作権規定検討委員会の山田眞一委員長より「中国語教育学会著作権規定」案が示され、条文ごとに補足説明がなされた。その後、質疑応答、意見交換等を含めて議論を行った。同原案については 2 月末まで、理事会関係者が専用のメーリングリストにて継続審議することとなった。規定が制定されるまでのスケジュールは上記 2.2.7.2. を参照。

3. 事務局からのお知らせとお願い

3.1. 会員動向および会費納入状況

以下敬称略

(1) 会員数 (2020 年 11 月 19 日現在) : 計 547 名

(通常会員 517 名、名誉会員 30 名 / 個人会員 528 名、団体会員 19 名)

(2) 新入会員 (2020 年 5 月 16 日～2020 年 11 月 19 日) : 計 22 名

周桑 (名古屋大学人文学研究科・院)、戸谷将義 (愛知大学・院)、相原まり子 (海上保安大学校基礎教育講座)、野田寛達 (明治大学経営学部)、横山昌子 (神奈川大学・非)、小山邦彦 (株式会社イーオン中国語事業部 ハオ中国語アカデミー)、閔佳祺 (東京外国語大学・院)、中野くみ恵 (埼玉県立戸

田翔陽高等学校・非)、森中野枝(関西学院大学・非)、程天添(人材育成支援 E'GA)、曾睿(東北大学・非)、泉川友樹(日本国際貿易促進協会)、大江千晶(立教大学)、中川敬亭、徐勤(大阪大学・院)、薛晨(名古屋大学人文学研究科・院)、李梓嫣(大阪大学・院)、蘇珏昀(京都大学・院)、山田典史(北京博創嘉華教育)、張麗娜(京都外国語大学・非)、鄧宇陽(新潟大学現代社会文化研究科・院)、大久保蛍(北陸大学)

(3) 退会者(2020年5月16日~2020年11月19日):計1名

(4) 除籍者:計13名

周錦樟(南山大学外国語学部)、塚本尋(杏林大学)、小笠原恵子(流通科学大学・非)、大野広之(慶応義塾大学・非)、賈曦(東京国際大学言語コミュニケーション学部)、郝静(お茶の水女子大学・院)、越山拓馬(愛知大学大学院中国研究科・院)、孫秀雲(桜美林大学孔子学院)、李小捷(北京語言大学東京校)、崔丹(名古屋大学国際言語文化研究科・院)、小島良佳(お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科・院)、張金蘭(臺灣國立臺北教育大學)、孫日環(大阪大学大学院言語文化研究科・院)

(5) 会費納入状況(2020年11月19日現在):2,160,000円

3.2. 会費納入のお願い

平素より会費納入にご協力いただきありがとうございます。

会費未納の方は、お早めに納入くださるようお願い申し上げます。会費納入状況は会員自身でWEB版会員名簿(会員情報管理システム)にて確認することができます。

<https://a-youme.jp/jacle/member2/>

4月に郵送した払込取扱票を紛失された場合は、郵便局に備え付けの「払込取扱票」を使用して、下記の郵便振替口座に送金してください。

[口座記号-口座番号] 00110-1-191152

[加入者名] 中国語教育学会

3.3. 登録情報の変更について

学会登録情報(住所・所属・メールアドレス等)に変更がある場合には、会員自身が本学会サイトの「WEB版会員名簿・変更手続き」にログインして、ご自身で変更していただきますようお願いいたします。

<https://a-youme.jp/jacle/member2/>

WEB版会員名簿(会員情報管理システム)の運用については、あゆみコーポレーションに委託しております。WEB版会員名簿に関するお問い合わせは下記のあゆみコーポレーションまでお願いいたします。

〒550-0001

大阪市西区土佐堀1丁目4-8 日栄ビル703A

あゆみコーポレーション内 中国語教育学会事務局事務代行

E-Mail: support@jacle.org

TEL.06-6441-5260(代) FAX.06-6441-2055(代)

あゆみコーポレーションは複数の学会の事務局代行を行っており、電話番号、ファックスとも他学会

と共通で使用しているため、ご連絡の際には「中国語教育学会」についての問い合わせであるということをお伝えください。